

ホームの収容人員は100人。1人あたり35平方メートルのスペースで、なゆとりも十分にとってあります。浴室には、ねたきりのまま入浴できる特殊浴槽も設置します。

## 地域に密着し 開放された施設に

以上、施設面の大まかな紹介と特徴をあげてみましたが、もう1つの特徴として、場所的なものをあげることができます。

最初にも述べましたように、この施設は、地域に密着し開放された施設にする、ということです。

施設を地域の中に造ることによって、お年寄と地域の人たちとの結びつき、施設と地域の人たちとの結びつきをねらいとし、開かれた施設に

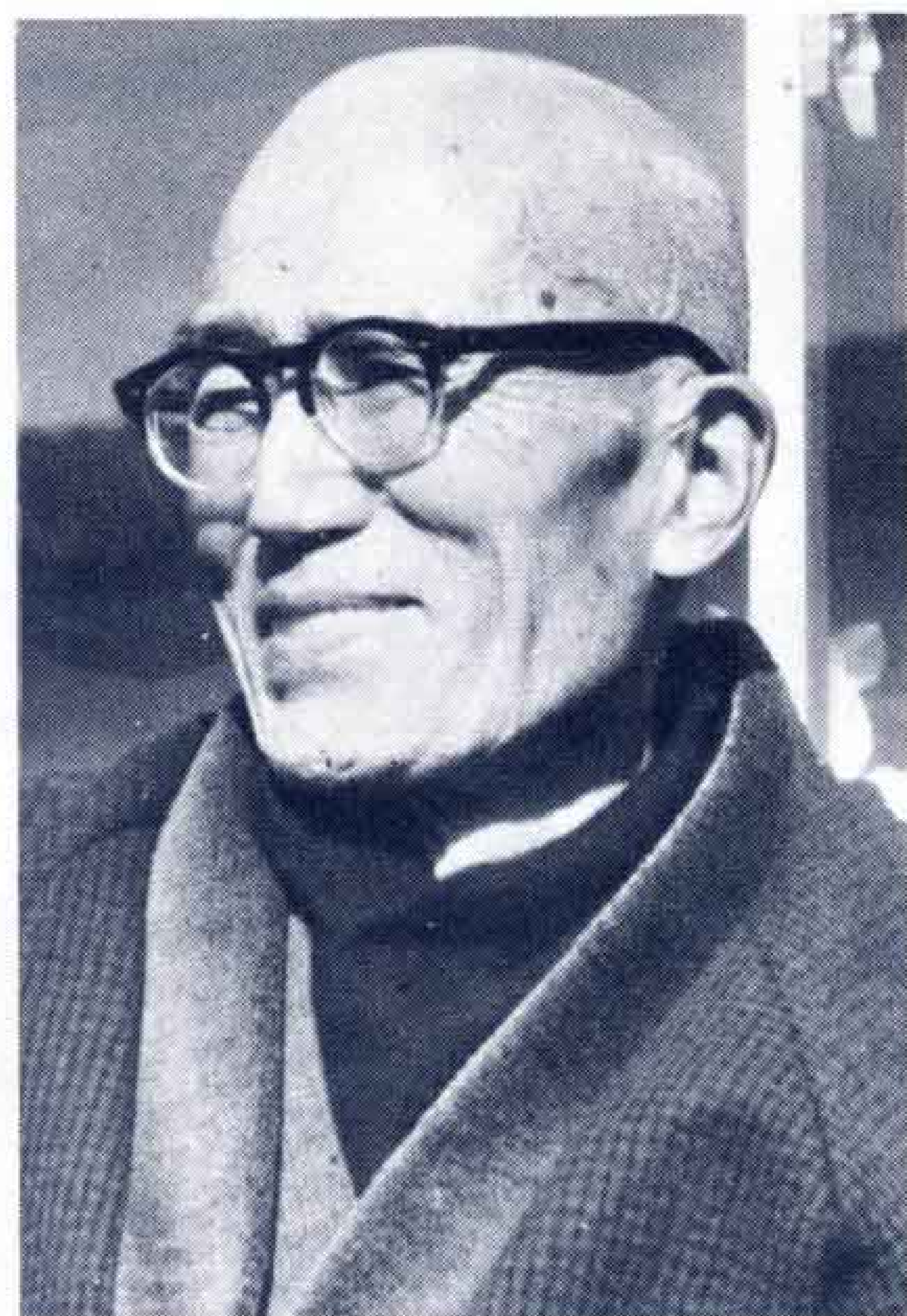
するということです。

具体的には、会議室や運動場の開放、地域の1人暮らしのお年寄に対して給食サービス、地域のお年寄り子ども会などとの交流も図っていきます。

このように、新しい養護老人ホームは、「収容の場から生活を中心とした場へ」の転換が大きく図られました。

富士老人ホームは昭和29年に、吉原老人ホームは昭和33年に建設され、老朽化が著しく、特に、吉原老人ホームは、大気汚染などの影響を受けやすい立地条件にありました。

現在、吉原老人ホームに45人、富士老人ホームに48人のお年寄が住んでいます。4月から新しいホームで生活することになります。



新しい養護老人ホームについての感想を、富士・吉原老人ホームの皆さんに聞いてみました。

・安部さん 72歳

クラブ活動のようなものができるそうなので、地域の人たちと一緒にできたら楽しいです。

・遠藤さん 76歳

今までのところを離れるのは多少不安もあり、さびしい気がします。

その反面、新しいところへ入るといふ夢もあります。

・天野さん 79歳

広い運動場もあるようなので、これからは、ゲート・ボールが十分にできると思います。

・竹内さん 71歳

新しい施設なので、特に気をつけてきれいに使わなければ……。

## 収容の場から生活の場へ

養護老人ホーム仮称「駿河荘」の開設後のあり方として、宮下清福祉部長は次のように語っています。

「地域の人たちとできるだけ交流を深め、地域に密着した老人ホームにしたい。さらに、ボランティア活動の拠点にもなれば……」と思います。

とにかく明るい施設にしたい。

また、施設のお年寄自身が自立を高めるには、積極的に地域へ出ていったり、地域の人たちと一緒にゲート・ボールや菜園づくりを行うのも良い方法だと思います。」

このように、同ホームは今までの老人ホームのイメージを一新したものと いえます。富士市にかぎらず、今までの老人ホームは、収容型で居室以外に余分なスペースがなく、地域との交流もほとんどありませんでした。新しいホームは、お年寄が住むのにふさわしい環境と、自らが生きがいを作れるように配慮した施設です。

しかし、同ホームがこれらの機能を十分に果すには、地域の人たちの理解と協力が最も大切です。



年末調整事務で盛況な吉原地区青色申告会

## 青色申告で節税を

青色申告制度は、所得税法の定めにしたがって、色々の特典を受け、租税制度確立のために欠くことのできない制度であり、国税にかぎらず市税収入にも寄与しています。

市内には、吉原・富士・鷹岡の3カ所に青色申告会があり、この制度の普及と発展につとめています。青色申告会の所在地と連絡先は次のとおりです。

◎吉原地区青色申告会

御幸町5-8

☎51-2038

◎富士青色申告会

横割1-20-23

☎63-9108

◎鷹岡青色申告会

入山瀬81-1

☎71-2358